



会報

会報 第6号

平成26年4月発行

内藤恒雄氏（駿河半紙技術研究会会長） 平成二十四年度地域伝統文化功労者表彰記念祝賀会

平成二十五年十一月十六日、富士宮市のクリスタルホール「パテオン」に於いて、内藤恒雄駿河半紙

技術研究会会長の地域伝統文化功労者表彰受賞記念祝賀会が催されました。

地域伝統文化功労者表彰というの

は財団法人伝統文化活性化国民協会が、伝統文化の振興に多大な貢献があった団体・個人を表彰する制度で、平成十四年度から実施され、都道府県教育委員会教育長が表彰状の伝達を行なっています。

祝賀会は二部形式によって開催されました。前半は佐野美術館館長の渡邊妙子先生による記念講演会で、後半は円卓を囲みながら会食形式の祝賀会が行われました。

前半の講演会は毎年行われているもので、今回で四回目を数えます。前二回は大荒れの悪天候だったので心配していましたが、当日は素晴らし



県教育長から伝達を受けた表彰状

しい秋晴れになりました。渡邊館長曰く、『私は晴れ女よ！』と、これには納得せざるをえませんで

た。（渡邊館長の生まれた日は雲一つない晴天だったそうです）

今回の講演会は、祝賀会があるため、例年より短縮されていますが、渡邊館長はわざわざ、佐野美術館所蔵の貴重な幾つかの巻物（古い写経）を持参し



講演する渡邊館長



巻物の説明を受ける出席者

てくれました。それをテーブルに広げ、出席者の間近でそれぞれを丁寧に説明して頂きました

た。また、紙の材質や製作方法などは昭和女子大の増田先生に解説していただきました。紙は大変貴重で庶民ではなかなか手に入らなかったため、膨大な量の写経をすると決めたお坊さんは、寄付を募りながら一生掛けて写経したのもあるようです。古いものでは、線を引く人、下書きをする人、清書をする人、装丁をする人などかなり細かい分業で作られたものも残っているようです。何世紀も前に制作された写経を、現在、私たちが鑑賞できるのは、先人達の努力と和紙の耐久性のおかげだと思われました。講演会に参加された皆さんも、渡邊館長の説明を聞きながら、大変興味深く写経を鑑賞していました。

講演会終了後、祝賀会が催されました。顧問で前富士宮市長の小室様からの挨拶を皮切りに、



増田副会長にも解説していただきました

来賓の方々から、次つぎとお祝いメッセージを頂きました。それを受けて、



挨拶する代表発起人小室顧問

内藤会長より、遠路はるばる駆けつけて頂いた来賓者及び出席者の方々に對して、謝意があり、これまでの苦勞話や将来のことなどを話されました。最後に万歳三唱で式が閉じられました。会員一同も、内藤



たくさんの方にご出席いただき、無事祝賀会を終えることができました

会長の今後のご活躍を期待しています。

会員紹介「その二」

小室直義（顧問・前富士宮市長）

内藤恒雄さんと知り合ったきっかけや時期は定かには覚えていない（笑）俺よりオジンだな、との印象を持ったが同じネズミ年だとわかり自分にシヨックを感じたり、また内藤さんにはいつその親近感を覚えたりした。

さて、私と和紙との出会いは、後藤清吉郎先生そのものからと言っても過言でないような気がする。そこから三極（みつまた）のこと、その栽培が江戸中期から白糸で盛んであったこと、明治期には、紙幣に使われたことから白糸滝壺近くに三極栽培地記念碑が建立されていること等々、色々の想いが湧いて出て、市長になった時は「白糸滝文化村構想」なるものも提唱した。その一つとして白糸小学校卒業証書には内藤さんの和紙を使おう、などこのことから益々もってこの地における手漉き和紙の存在と継承を願うようになった。そうした想いの重なりが内藤さんの駿河半紙技術研究会につながっているものと確信している。地域文化功労者表彰受賞を契機に今後ますます頑張っ

増田勝彦（副会長・元昭和女子大学教授）

東京生、昭和四〇年東京教育大学農学部卒業後、遠藤得水軒（日本画・書跡・文書等修復工房）、昭和四八年から東京国立文化財研究所 修復技術部勤務、平成十三年四月から昭和女子大学大学院。平成二五年四月から同大学光葉博物館顧問。

専門分野は、文化財保存、特に紙資料を中心とする文化財の保存修復、紙の技術史。

紙に関する発表は以下の通り。実験による再現を目的として「製紙に関する古代技術の研究」と題して奈良・平安時代の製紙技術、および紙打・瑩技法について、「平安時代料紙における加飾技法」として、羅文、打雲、飛雲、通文技法の解明を行った。また、奈良時代文書料紙の調査を踏まえて、「正倉院文書料紙調査所見と現行の紙漉き技術との比較」「いわゆる流漉と溜漉について」「日本における製紙術変遷に関する私論」「手漉き和紙における仕立て繊維濃度と製紙」などにおいて抄紙技法における日本独自の技術発展の様相を述べている。

初めての紙すき体験

小林 智

自然素材を生かしたインテリアに興味があり、仕事でも内装材として、壁・天井・建具等に和紙を貼ることがある為、インターネットで和紙のことを調べていたところ、内藤先生のホームページを見つめました。それが、駿河半紙技術研修会に入会するきっかけとなりました。

今回九月二八日（土）の実技研修が初参加となり、道具の名前や材料の説明等を受けながら、紙を漉いていく手順を一から教わりました。内藤先生や四条先輩が、簡単そうにやっているので、わけなく紙を漉けると思いきや、何回やっても紙が崩れてしまい、自分のセンスのなさがっかりしました。それでも、途中アドバイスをいただき、作業を進めていきますと、研修の最後には、やっと箸をすくい上げるコツがわかり始め、紙をいくらか平滑に漉くことができ、ホッとしました。

この日は、雲ひとつない秋空で富士山もはっきり見え、気分良く家路につきましました。次回の実技研修が楽しみです。

